

TOPIC

ウップサーラ大学 留学記

ウップサーラはスウェーデンの首都ストックホルムの北70キロにある人口16万の古都で、空港より車で40分と比較的便利なところにあります。観光名所としては北欧最大の教会で、175年の歳月をかけて完成したウップサーラ大聖堂とグスタフ・パーサー王が築いたルネッサンス様式のウップサーラ城などがあります。ウップサーラ大学はノーベル賞の受賞者を7人も輩出しており、伝統と格式では北欧でもトップクラスの大学です。

私は、数年にわたり研究してきた低流量麻酔についてさらに研鑽を積むべく、このウップサーラ大学に留学しました。

大学病院はウップサーラの中心街から300メートルの至近距離にあり、約1キロメートル四方に各建物が分かれて建っています。私の所属は Cardiothoracic Anesthesia

でドクター・トゥデンをチーフとする10人のスタッフがおります。病棟200床と手術室5部屋、ICU24床があり、年間1300例以上の心臓手術が行われています。

低流量麻酔は数十年前より行われていた麻酔法ですが、熟練した麻酔医でなければ危険をとまぬため、現在までなかなか普及しなかったという経緯があります。しかし今では医療技術の進歩によりこの危険を回避することができ、すべての麻酔医が安全に低流量麻酔を行うことができるようになりました。さらに近年、資源の節減と環境汚染に対する社会的な関心が高まり、この社会的背景に対応する麻酔法として俄然注目されるようになってきました。すなわちこの麻酔法は今までおこなわれてきた方法（高流量麻酔）よりも麻酔ガスの消費量を節減し、麻酔ガスによ



写真：ドクター・トゥデンと尾藤助手

尾藤博道

びと・ひろみち

浜松医科大学医学部麻酔・蘇生学助手。

る環境汚染を少なくするので

す。
スウェーデンでは、低流量麻酔自体の普及率は非常に高く、半数近くの手術患者に対して行われていました。その理由として環境汚染の問題よりもコストの削減が重視されていたことが私にとっては意外であり興味深いことでした。

また、2ヵ月半の短い留学期間のなかで運よくフィンランドにおいて開催されたヨーロッパ心臓胸部麻酔学会に出席することもできました。興味ある講演を聞いたこともさることながら、世界の著名な麻酔医に会えたことやヨーロッパの学会を経験できたことが私にとっては大きな糧となりました。

ところで私が滞在した時期は初夏とはいえ日本の冬のようで、6月末までは暖房も使わ

ずにはいられないといった気候でした。また白夜というのは眠れない夜というイメージしかなかったのですが、仕事が終わってからゴルフができるという長所もあり、私もずいぶんこの恩恵にあずかったものです。わたしのボスであったドクター・トゥデンもゴルフが好きで、天気の良い夕方には「あ・うん」の呼吸でゴルフ場に出かける習慣ができてしまいました。おかげで、青白い顔をして帰国するのではないかと皆の期待を裏切って、健康的な姿を見せることができました。また、単身赴任は初めてのことで、独り身の自由とはうらはらに、感動を共にする家族がそばにいなかったことだけが唯一の心残りです。またいつかあの優しい陽射しとさわやかな人達に会いに、今度はぜひ家族と共にいってみたいものです。